



操業開始以降の運転計画



1

操業以降の運転計画立案に係る考え方



- 試験運転として、化学試験、ウラン試験、アクティブ試験と段階的に機能確認を実施。
- アクティブ試験では、使用済燃料の処理量を段階的に上げながら機能確認を実施。

長期停止している状態で操業運転に移行することを踏まえ、操業開始時の運転計画を考える必要がある

使用済燃料の処理を段階的に実施する運転が実効的

【中期的計画】

段階的に処理量を上げ、年間800トン処理の定格稼動に到達するまでの計画（フランスUP3再処理工場の定格稼動までの実績を参考に計画を検討）

【短期的計画】

中期的計画で決めた年間の処理量に対して、その中でさらに段階的に処理用を計画（運転員の運転技術、設備の機能の再確認のステップを考慮し、特に初年度の処理計画を検討）

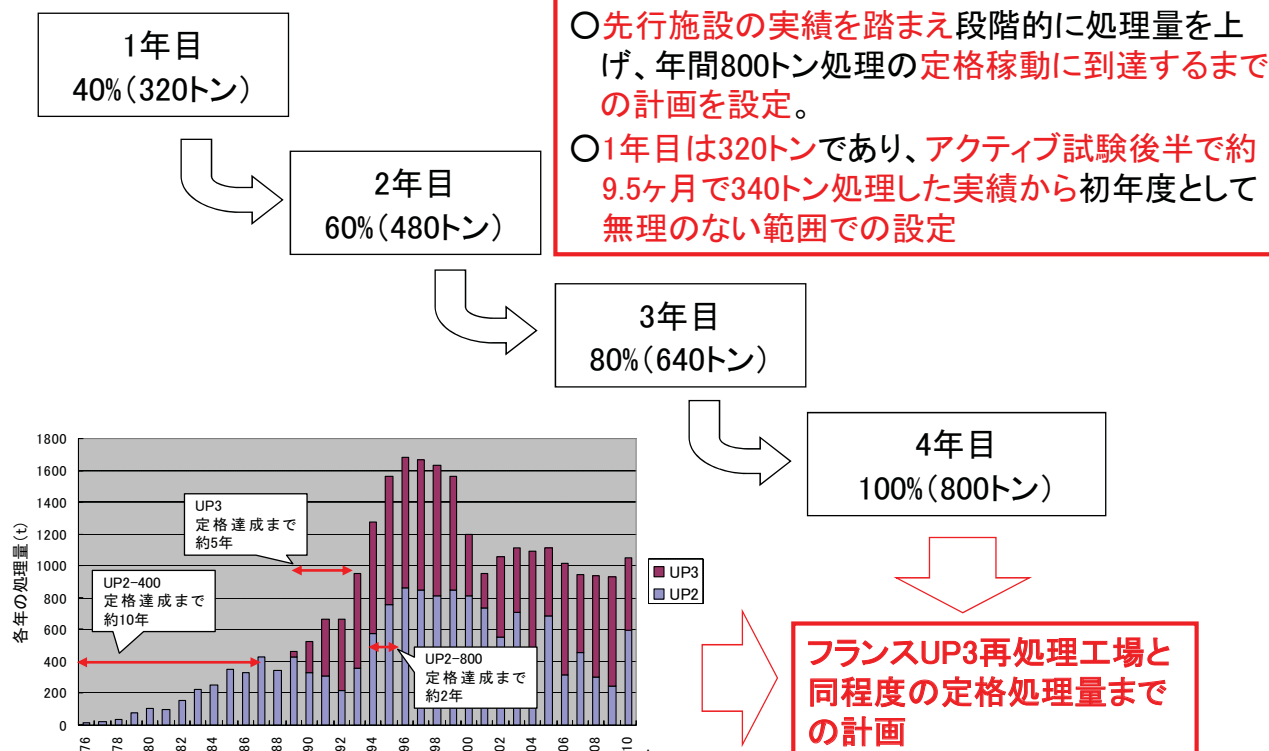
2

操業以降の運転計画案(中期的計画)

日本原燃株式会社



中期的な処理量の段階的な増加計画



3

操業以降の運転計画案(短期的計画)(1/2)

日本原燃株式会社



運転員の運転技術、設備の機能の再確認のステップを考慮し、特に初年度の処理計画を検討

Phase-1: 運転直の**全班がせん断処理を行うことが出来る期間**を設定
Phase-2: **連続運転の確認**

【操業以降の段階的な運転計画の案】

Phase-1
20トン

Phase-1で確認された改善点の抽出、反映

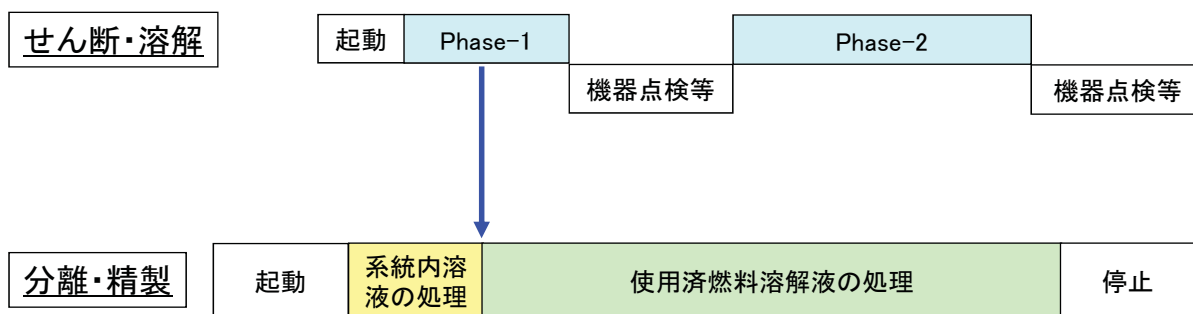
Phase-2
40トン

機器点検等実施後、連続運転(段階的に連続運転の処理量を増加)

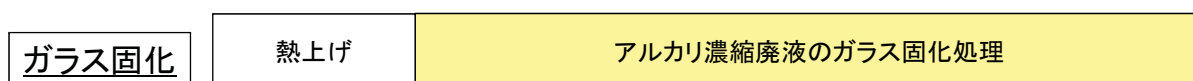
4

操業以降の運転計画案(短期的計画)(2/2)

日本原燃株式会社



※系統内溶液の処理: 前回の使用済燃料処理後に機器洗浄等を行った溶液を貯槽内に保有しているため、使用済燃料溶解液の処理を行う前に系統内溶液の処理を行う必要あり



※アクティブ試験特有の運転を行ったため、高レベル廃液のうちアルカリ濃縮廃液が最も多く貯留されているため、アルカリ濃縮廃液のガラス固化処理を優先して行う必要あり

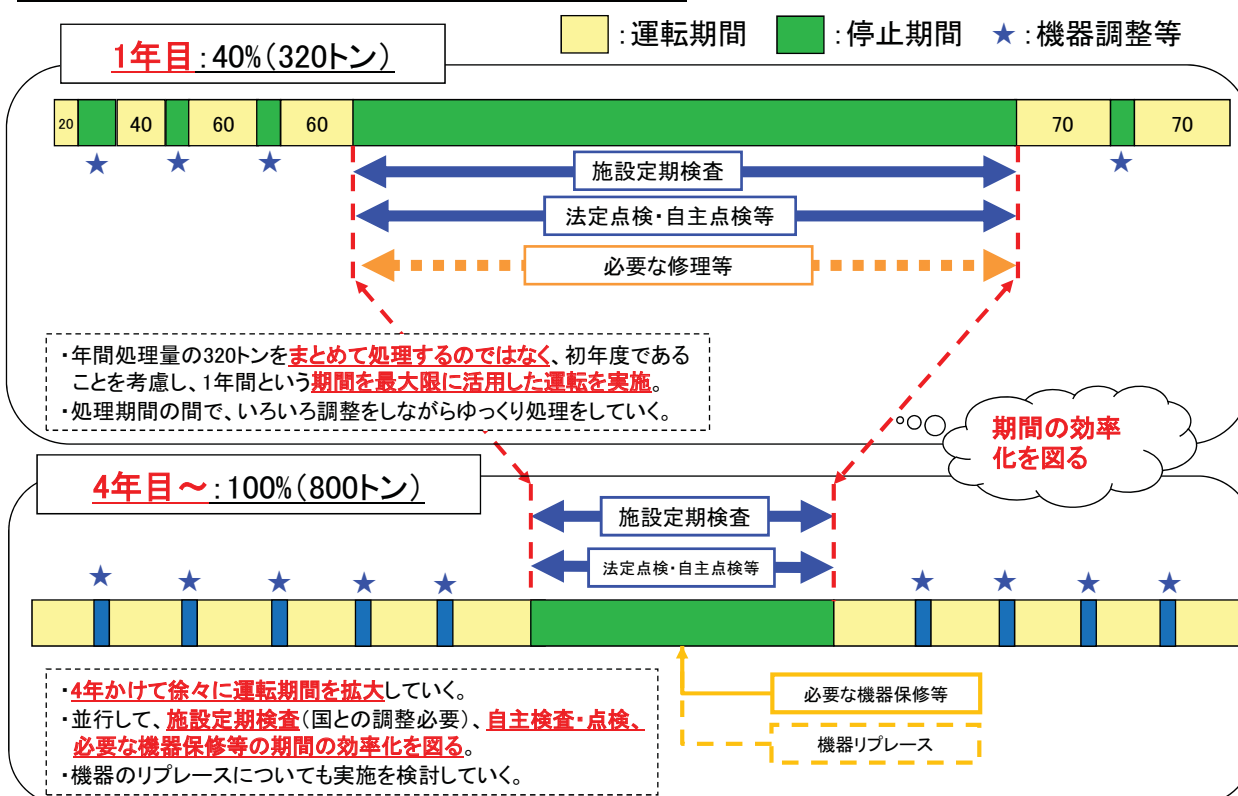
5

操業以降の運転計画案(短中期的計画)

日本原燃株式会社



短中期的な処理量の段階的な増加計画イメージ



6